

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・北海道胆振東部地震後の外国人観光客の回復が遅れている。ただ、そうした中で中国人とマレーシア人の観光客が目立っている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・リンゴの収穫量が悪くないため、3か月前と比べるとやや良くなっている。今後については、ほかの果物の動向次第の面がある。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・特選、宝飾、時計などの高額商材のほか、コートなどの冬物衣料に動きが出てきた。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・北海道胆振東部地震後の消費の落ち込みからの回復がみられ、来客数、買上客数、買上単価のいずれも前年を上回っている。こうした傾向は今後も続くと思われる。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・テナントのソウルフード店が11月で閉店することになり、閉店を前にして朝から200人ほどの客が並ぶ状況となっている。その客がスーパーにも流れていることで景気はやや良くなっている。
		スーパー（役員）	お客様の様子	・例年と比べて暖かい日が続き、初雪が遅かったことから、人の動きが活発である。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・周辺で太陽光発電の工事が進められており、その影響で一部の地区で来客数が増えている。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・全体的には引き続き下降気味で推移しているが、来客数がようやく回復してきている。まだ必要な物しか購買につながっていない状況だが、にぎわいを取り戻すことで徐々に購買意欲が上向いてくると期待している。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・ギフトシーズンに向けて来客数が増えてきている。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・防災関連の商材、LEDランタン、ラジオ、石油ポータブルストーブなどの売行きが伸びている。また、4Kテレビ関連の商材も堅調に伸びている。
		自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・降雪の遅れにより、11月の来客数は前年比130%となった。12月も冬季商材を中心に客の来店が見込めることから、来客数は前年比105%の見込みとなっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・北海道胆振東部地震のあった9月以降、利用客が激減していたが、少しずつ以前の状況に戻ってきている。11月のタクシーの売上は若干前年を下回る程度であった。夜間も年末に向けて人出が戻ってきている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・降雪が遅れているにもかかわらず、販売量が増加している。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・11月は天候が安定していたことに加えて、3連休の国内客、外国人観光客の入込が盛況であったことから、当施設の利用客も増加している。11月27日時点の利用客は前年比122.6%と前年を上回っている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・今年は特に天候に恵まれており、フェリーの欠航日数が減少している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・北海道胆振東部地震の影響が薄れていること、例年と比べて雪の降る日が遅かったことなどから、11月前半の来客数が前年よりも多かった。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子は前月と変わらない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・11月はスケートワールドカップが開催された影響で、宿泊、飲食などの一部の業種では例年よりも売上が増加した。一方、石油製品の価格高騰の影響により地域住民の来街が減少しており、日配品などを扱う多くの業種では売上が低調であった。全体的には景気はやや悪い状態が継続している。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・今年は例年よりも雪が遅く、衣料品、靴などの冬物衣料が壊滅状態にある。月末近くによやく積雪がみられたことで少しは取り返しているものの、依然として前年を割り込んでいる。また、北海道胆振東部地震後の自粛ムードがまだ解消されていないことから、飲食店や飲み屋も低迷している。	

一般小売店 〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・当地では新規店が大分増えており、それに伴い当店の取引先も増え、売上アップにつながっている。ただ、11月の売上は引き続き好調をキープしているものの、足元の景気は余り良くない。
百貨店（営業販売担当）	お客様の様子	・9月上旬の北海道胆振東部地震の影響に加えて、11月の気温が高めで推移したこともあり、衣料品が苦戦している。月末の最終週になってようやく前年並みの動きに戻りつつあるが、このまま回復傾向で推移するか予断を許さない状況にある。
スーパー（店長）	お客様の様子	・テナントの専門店の様子を見ると、新店舗の売上が好調な一方で、既存店舗の動向が厳しい。
スーパー（店長）	販売量の動き	・9月の北海道胆振東部地震以降、必需品の商品動向が顕著に上向いた一方で、嗜好品や衣料品の節約志向が高まっている。お歳暮ギフトの件数を抑える動きもみられており、景気は変わっていない。
スーパー（企画担当）	お客様の様子	・9月の北海道胆振東部地震後は落ち着きを取り戻すにつれて、不要不急の消費を控える動きがみられるようになってきている。例えば、酒類の販売量が低下したり、高額商材の売行きが芳しくないなどの動きが目につくようになってきた。
スーパー（役員）	来客数の動き	・ここ数か月、景気は悪い状態のまま推移している。ホームセンターやドラッグストアを含めた食料品小売での業態間競争が激しくなっていることで、客の奪い合いや価格競争が進んでおり、景気回復に結び付かない状況となっている。
コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・周辺地区に農家が多く、今年の米の作況が悪いことから、客の買い控えがみられる。また、来年に予定されている消費税増税に対して敏感に反応している様子もうかがえる。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・夏場の気温低下、9月の北海道胆振東部地震などの影響で、売上、来客数の前年比が一層悪化している。11月に入り販促チラシを出した時の来客数の増加割合が以前よりも大きくなっていることから、客が価格に対して敏感になっており、節約志向が一層強まっている様子がうかがえる。
コンビニ（店長）	単価の動き	・客単価が上昇しているが、たばこの値上げに伴う影響が大きく、景気は変わらない。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・競争相手も含めて、受注量の少ない状況に変化がみられない。受注残も月を追うごとに少なくなっており、売上を上げるのに苦慮している。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・高額車も売れてはいるが、全体の販売量が上向いてこない。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売台数が伸びてこない。例年、北海道では11～12月が冬枯れの時期となり、1～3月で盛り返すという流れにある。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・観光客が戻ってきており、外国人観光客の姿もみられるようになってきた。11月は3連休があったこともプラスとなり、来客数は前年を27%上回った。また、ランチタイムの回転率を上げるために若いスタッフが取り組んでいる様々な取組の結果も実績として表れてきた。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・北海道ふっこう割の効果もあり、11月は堅調であった。ディナー客は相変わらず伸びていないが、ランチ客は安定していた。街中で観光客があふれているのを見ると有り難い気持ちになる。
観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・北海道胆振東部地震の影響が依然として大きい。コンサートやある企業の長期滞在といった特殊要因もあったが、落ち込み分を取り戻すには及ばなかった。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・ホテルや温泉旅館などの宿泊業は、北海道ふっこう割の影響で11月以降、前年を上回る予約状況となっている。一方、当地の旅行需要の主体となる農業については、ほぼ前年並みで落ち着いている。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・客との会話の中で景気の良い話題が残念ながら出てこない。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・12月を前に目立った動きがみられない。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・来客数、客単価のいずれにも変化がみられない。

	タクシー運転手	来客数の動き	・北海道胆振東部地震の影響も徐々に落ち着き、それに伴い来客数も戻ってきている。余震が続いていることもあり、客との会話で地震の話はいまだに話題に上がる。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・今年は初雪が遅かったため、客の需要が例年よりも少ない。ただ、その分、事故などに伴う経費負担が少なくなっており、景気は変わらない。	
	通信会社（社員）	来客数の動き	・客の数に特に変化がみられないため、景気は変わらない。	
	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・通信サービスについては、販売数、解約数共に想定どおりであった。一方、光関連サービスについては、純粋な新規加入者よりも既契約者の奪い合いという面が強くなってきており、動向を注視している。	
	パチンコ店（役員）	単価の動き	・原油価格が高騰していることもあり、景気は変わらない。	
	美容室（経営者）	販売量の動き	・月初めから徐々に灯油の価格が下がってくるのと連動するかのように売上が上がってきている。1リットル当たり100円を超えると消費意欲がかなり低下する傾向がつかえる。	
	美容室（経営者）	販売量の動き	・11月は前月と比べて5%弱売上が下がったが、3か月を通してみるとほとんど変わらない。	
	美容室（経営者）	お客様の様子	・北海道胆振東部地震の影響なのか、客の買い控えがみられる。	
	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・北海道胆振東部地震前と比べると、来客数がやや減少しており、苦戦している。特に外国人観光客はいまだに2割程度の落ち込みがみられる。ただ、国内客については北海道ふっこう割の影響なのか、10～11月に関してはかなり上向いている。	
	百貨店（担当者）	販売量の動き	・冬物が本格的に動き出す時期であるが、気温が下がらず、降雪も遅いため、例年と比べて全体的に冬物の動きが鈍化している。	
	家電量販店（店員）	販売量の動き	・暖冬のせいなのか、11月は暖房機などの動きが鈍い。販売額も前年を下回った。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・8月以降、新型車や改良車の発売が相次いでいるにもかかわらず、販売量が伸びてこない。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・来客数が少ない。雪が降ってからは客足も重くなっている。冬のボーナスの話も少なく、購買意欲につながっていない。	
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・薬局の主要顧客は高齢者であるが、その予備軍となる中年層の安定的な来店が見込めないことから、今は厳しい時代となっている。	
	スナック（経営者）	来客数の動き	・全般的に景気が悪い中、当地では市長選挙があったため、客足がやや少なかった。	
	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・例年11～12月は観光の端境期となり、客足が鈍る時期となる。特に今年は9月の北海道胆振東部地震以降、観光客の減少傾向が継続していることから、厳しい状況にある。また、管内の作況が今一つであるため、当地からの旅行需要も弱めである。	
	タクシー運転手	単価の動き	・11月の売上は前月よりも1.5%程度減少しており、非常に厳しい状況にある。北海道胆振東部地震以降、回復傾向がみられず、3か月前と比較すると売上は約1,500万円の減少となっている。これから冬期間に入っても減少が続くことを懸念している。	
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・米中貿易摩擦などの影響で、米国の株式市場も日本の株式市場も大幅に乱高下しており、そのことが様々な消費や投資の動きに悪影響を与えている。	
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームを訪れる客について、購入までの商談に要する時間が以前と比べて少しずつ長くなってきている。	
	×	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・北海道胆振東部地震以降、国内客も外国人観光客も客足が戻ってこない。道央圏は回復基調にあるようだが、道北・道東圏は北海道ふっこう割の効果も低く、回復には程遠い状況にある。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・北海道胆振東部地震の影響により遊興消費のマインドが低下しており、夜間の人出が大幅に減少している。忘年会シーズンを控えているとはいえ、例年と比べても少ない。
企業動向関連	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上が毎月予測を少しずつ更新しており、3か月前の予測を大幅に上回る実績となっている。	

(北海道)	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・例年と比べて降雪が遅かったため、建設工事の進捗が順調である。工事の追い込み時期に入り、完工高及び利益の積み上がりが良好な状態でピークを迎えつつある。
	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・ブラックアウトや台風の災害対策に伴い、代替輸送、応援輸送が発生している。北海道と本州又は九州間、本州間の輸送が増えている。ただし、その分、トラックドライバーの不足がみられ、集配業務のやり繰りに苦慮している。
	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上が3か月前と変わらない。また、前年とも変わらないため、景気は変わらない。
	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・大都市における小売店舗の不振に加えて、地方都市では中小企業を中心に人手不足や原材料価格の高騰の影響がみられるなど、プラス要因を見だしにくい状況にあり、総体的な不況につながっている。
	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・当初は北海道胆振東部地震の影響による落ち込みがあるとみていたが、政府の迅速な支援対応などもあり、周囲の景況感に落ち込みは感じられない。景気は震災前と同程度のやや良い状態を維持している。
	広告代理店（従業員）	取引先の様子	・取引先からの広告受注、集客イベントの動員など、年内の動きが鈍い。
	司法書士	取引先の様子	・取引先の最近の傾向としては、建物の新築、増築工事の受注は若干伸びているが、これから冬期間に入ることを考えれば、景気が上向きとはいえない。地元業者の不動産取引についても大きな変化はみられず、横ばいで推移している。
	司法書士	取引先の様子	・依然として不動産取引の低迷が続いている。当地はこれから本格的に雪が降り始めるため、交通、買物などの利便性が高い、特別な不動産以外は横ばい状態で推移する。
	コピーサービス業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・消費税増税に伴う駆け込み需要はあるものの、投資に対する慎重な姿勢が継続している。
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・外注先の調達ができないため、新規受注ができない状況にあり、景気は良くも悪くもなっていない。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・現状、建設関連需要に余り勢いがみられない。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上が引き続き前年並みで推移している。
	建設業（従業員）	取引先の様子	・北海道胆振東部地震の影響により、道外からの観光客が激減しており、観光ホテルでは新規の建設投資の見直しを始めている。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・北海道胆振東部地震による悪影響はかなり緩和されてきている。しかしながら、観光関連産業において北海道ふっこう割などの政策効果による国内客の回復がみられる一方で、道内景気を押し上げてきた外国人観光客による消費が震災前の水準まで回復していないことから、道内景気は3か月前と比べてやや悪化している。
x	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・11月の販売量は前年比マイナス11%であった。3か月前の8月の販売量は同プラス15%であったため、景気は悪くなっている。
雇用関連 (北海道)	-	-	-
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・毎月の求人情数が底堅い。会合などで企業経営者と会った際には必ず人材が確保できないかとの話になり、何とか紹介してくれないかと強い依頼を受ける。企業の業績も堅調であり、人材が確保できれば売上を増加させられる余地があるように見える。しかしながら、求人に合致する人材が少なく、実際には人材提案に苦慮している。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・サービス業を中心に忘年会の予約の動きが早く、飲食店において相当の件数の予約が入っているという話を聞く。また、観光面では北海道ふっこう割の利用者が増加している。

	学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	・ここ数年間は学生側の売手市場が続いており、2020年新卒者に対する各企業の採用意欲は高めで推移している。新卒学生1人の採用は企業にとって2億円超の先行投資となることから、各企業では来年度も道内景気が安定した状態で推移するとみていることがうかがえる。
	求人情報誌製作 会社 (編集者)	周辺企業の様子	・年末年始の繁忙期の求人が若干増加しているが、サービス業では人手不足から人材確保が厳しくなっている。
	求人情報誌製作 会社 (編集者)	求人数の動き	・人手不足の建設業や介護業界からの求人は依然として多い。また、外国人観光客の回復が顕著になってきたことから、観光関連業界のアルバイト、パートのニーズも多少増えてきている。一方、正社員による人材紹介の登録者が減少傾向にある。
	求人情報誌製作 会社 (編集者)	周辺企業の様子	・どの業種においても人材難が顕著に表れている。特に若年者層の採用が難しいことから、シニア層や主婦といった一時しのぎの求人が目立つ。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・月間有効求人数が2か月連続で前年を下回ったが、月間有効求職者数が7年連続で前年を下回ったことから、有効求人倍率は1.12倍と8年8か月連続で前年を上回った。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・10月の有効求人倍率は1.18倍であり、前年を0.11ポイント上回り、引き続き高い水準で推移している。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・新規求人数、新規求職者数のいずれも前年並みであり、状況に大きな変化はみられない。
	求人情報誌製作 会社 (編集者)	周辺企業の様子	・北海道胆振東部地震直後と比較すると、景気が回復してきている雰囲気はあるが、求人意欲や集客状況などが震災前と同じレベルまで戻ったという実感はない。
	x	-	-